

日本語教育を学ぶ学生のためのHoT-JeT合宿2025

私たちが見た日本語教育の現場と魅力 ～北海道日本語学院札幌本校～

2025年9月10日～11日、北海道・東北地域の大学で日本語教育を学ぶ大学生・大学院生8名が札幌に集まり、合宿を行いました。合宿では、札幌市内にある日本語学校2校を訪問させていただきました。学校や授業の様子を見学し、講師の方々に直接お話を伺うことで、日本語教育の実際の現場とその魅力を学ぶ貴重な機会となりました。本記事では、その体験を学生の視点からご紹介します。

学校の概要・特色

北海道日本語学院札幌本校 <https://h-nihongo.org/>



札幌駅から地下鉄で約10分の場所に位置する「北海道日本語学院札幌本校」は、2015年に開校し、今年で開校10年目を迎える日本語学校です。栃木には姉妹校があります。こちらの学校では、「よく学び、よく遊び、よく感じる」をコンセプトに、言語学習だけでなく、文化体験やアクティビティを重視したカリキュラムが組まれています。こちらの学校では学生のニーズに応じた多様な学習コースが用意されており、入学時期も年3回(4月・7月・10月)から選べます。主な学校の特徴は2点あり、充実した行事やアクティビティと、学習者の国

籍です。まず、北海道ならではの体験ができる行事・アクティビティが非常に充実しています。七夕や初詣、書道などの日本文化体験はもちろん、北海道ならではのスノーアクティビティやアイヌ文化に触れる体験学習、さらに学生だけではなかなか訪れにくい郊外への遠足などがあります。これらは学習者からも高い評価を得ており、他校では中々見られない特徴だと感じました。続いて学習者の出身地についてです。こちらの学校では、台湾22%、米国13%、ロシア・中国が各8%、香港・ネパールが各7%といった割合です。全体では20～30か国以上からの学生が在籍していますが、他の多くの日本語学校では東南アジア出身の学生が大半を占める中、米国出身の学生が13%と高い割合を占めており、さまざまな背景を持つ学生たちが交流する、多文化共生の環境が整っている点が特徴です。実際に校内を見学して印象的だったのは、学習者のサポート体制が非常に整っているということです。地元大学生ボランティアが作成した「おすすめスポットマップ」やアルバイト求人情報掲示、自習室やプライベートレッスン用教室が整っており、学生の不安に寄り添おうという学校の姿勢が感じられました。

授業見学



今回見学したのは、今年の4月に入校したばかりの学習者20名による初級クラスです。使用教材は『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』第27課「可能動詞」。日本語をゼロから学び始めた学習者たちが、明るく活発な雰囲気の中で授業に取り組んでいました。まず印象的だったのは、学習者と教師の距離の近さです。授業の最中でも学習者が気軽に声をかける姿が見られました。その都度、教師が明快かつ簡潔に答えるため、確実に理解が深まっていることが感じられました。さらに教師は机間巡視の際、学習者の回答が間違っている場合でも優しく訂正して、自信を持たせていました。全体で答え合わせをする際には、その学習者をあえて指名して発言させるなど、前向きな学習態度を育てる工夫が見られました。また、授業中に扱う例文が北海道に関連した内容でした。観光地や日常生活に密接した場面を題材にすることで、学習者が自分の生活とつなげて理解できるよう配慮されていました。こうした題材は、学習者にとって身近で親しみやすく、日

本語学習のモチベーションを高める効果があると感じました。授業後には、学習者との交流会にも参加させていただきました。レクリエーションを通して見えてきたのは、学習者一人ひとりの明るさと元気の良さです。「楽しく日本語を学びたい」という姿勢が全身から伝わってきて、教師と共に学びの時間を心から楽しんでいる様子が印象的でした。教師と学習者が一体となって日本語を学び続けていることが、この学校全体の明るさを支えているのだと実感しました。

今回の授業見学と交流会を通じて強く感じたのは、この学校が「明るく、楽しく、そして安心して学べる場」であるということです。北海道で日本語を学びたいと考える人にとって、この学校はきっと心強い選択肢になると思います。

講師インタビュー

北海道日本語学院札幌本校で講師をされている2名の先生にインタビューをしました。お話の中で特に印象的だった回答をご紹介します。

Q. なにか外国語を話すことができますか？(日本語教師になるために必要だと思いますか？)

S先生は、英語とタイ語が話せるそうです。また、「必ずしも話せるスキルが必要ではなく、その言語を話せなくても学んだ経験が大切」と答えてくださいました。この言葉を聞いた時、自分は日本語以外の言語を学んだ経験はあっても話せないという意味がないと思っていましたが、考えが変わりました。実際、日本語以外の言語を話せない日本語教員の方もいるそうです。教えたいという強い気持ちが重要だと学びました。

Q. 若い人材が入ることで日本語教育や学校として良いことはありますか？

日本語学校には、10代～70代と様々な年齢の方たちが在学しています。S先生は、「学習者との年齢が近いことで、分かり合えることがある。年齢関係なく、学習者が話しやすいと思える人であることが大切。」と答えてくださいました。確かに、今回見学をしていて年齢層が幅広いと感じ、学習者同士のコミュニケーションの様子を見ていても、年齢関係なくコミュニケーションを取っていました。この回答を聞いて、教員と学習者共に、年齢に関係なくいつでも何歳からでも学びを始めることができると気づきました。

Q. 日本語教員に向いている人はどんな人ですか？

S先生は、「コミュニケーション能力・向き合う気持ちがある人だと思う。」と答えてくださいました。S先生が指すコミュニケーション能力は、学習者とはもちろん教員同士のコミュニケーションも含まれます。S先生は、学習者にまんべんなく向き合うことが大切だと仰っていました。この話を聞いて、学習者の情報共有や、誰とでも話せる環境づくりを自分でできることが信頼に繋がるのだと考えました。

Q. 教師になった当初ぶつかった壁や苦労したことは何ですか？また、それをどうやって乗り越えましたか？

T先生は教師になった当初、授業準備の大変さに加えて「当たり前の違い」に苦労したといえます。日本では当然と思われることも、学習者の出身国や文化によっては通じないことも多く、そのたびに試行錯誤を繰り返してきたそうです。「国や人によって”当たり前”は違う」と気づいてからは、その違いにぶつかりながらも学習者の気持ちを尊重し、丁寧に向き合う姿勢を心がけているとおっしゃっていました。对学习者に限らず、答えを急がず互いに理解し合おうとすることが大切なのだ学びました。

Q. 日本語教師としてのやりがいは何ですか？

T先生が日本語教師として最もやりがいを感じるのは、学生からの「わかった!」という一言だそうです。授業のために何時間もかけて準備した内容が、学習者の理解につながったと感じたとき、大変さも一瞬で吹き飛ぶと笑顔で答えてくださいました。また、卒業する学習者が「迷惑をかけましたが、先生に教わったことが今すぐ役に立っています」というメモを渡してくれた、というエピソードも話してくださいました。日々の学びを通して少しずつ成長していく姿をそばで見守り、その過程と一緒に歩めることもこの仕事ならではの魅力なのだ改めて感じました。

訪問の感想

今回の日本語学校の訪問を通して、日本語教師という仕事の魅力をこれまで以上に深く感じることができました。普段の授業ではなかなか知ることのできない、学校全体のあたたかく明るい雰囲気や積極的に授業に参加する学生たちの生き生きとした様子を見ることができ、とても印象に残りました。また、インタビューをさせていただいた際には、先生方が楽しそうに学生とのエピソードや教師としてのやりがいをお話くださり、その姿からこの仕事への誇りや愛情が強く伝わってきました。今後も学びを重ねながら、自分らしい日本語教師像を築いていけるよう、一歩ずつ努力を重ねていきたいと思います。

K.K.(北海道教育大学函館校)

今回の日本語学校への訪問を通して、日本語教育という大きな分野への視野が大きく広がったと実感しました。特に、北海道に関連した例文を取り入れた指導は、学習者の生活に直結した学びを生み出しており、大学で日本語教育を学ぶ私にとって大変参考になりました。日本語学校での交流会では、学習者の元気や前向きな姿勢に触れるとともに、教師との距離の近さや教室全体の明るい雰囲気が強く印象に残りました。このように楽しく日本語を学べるランゲージスクールが今後さらに増えてほしいと感じると同時に、将来は私自身も学習者と共に楽しみながら学べる日本語教師になりたいと強く思いました。今回の訪問は、私にとって非常に貴重な経験となりました。

S.R.(東北学院大学)

今回の訪問で一番印象に残ったことは授業見学でした。日々大学で教案や模擬授業に取り組んでいますが、教員からのフィードバックを活かすことが出来ず「現場見学」が私には足りていないと感じていました。そこで今回、見学をさせていただいて、FBの活かし方、リアルな現場での授業の流れ、時間配分、教えるときの工夫まで学ぶことができ、とても貴重で充実した経験となりました。先生へのインタビューや学習者とも沢山関わることが出来て大変勉強になりました。今後はこの学びを活かし、学習者にとって楽しく、中身の濃い授業を届けられるよう実習に向けて精進して参ります。

E.M.(東北学院大学)

自分はまだ、実習や教案作りなどの経験をした事がなく、何もかもが初めて見る光景でした。今回、北海道日本語学院札幌本校を見学させて頂いた事で、自分が教壇に立って授業をするというイメージが想像でき、実習に向けて意欲が増しました。大学で授業を受けるだけでは知ることが出来なかった、教員の方からの現場にいることで分かる大変さや、教えることの楽しさを自分の目で見ることができ、とても良い経験になりました。また、教員の方々にインタビューをさせて頂き、自分が1番気になっていた教員が日本語以外の言語を身につける必要性についての考えを伺うことができました。この合宿で吸収した、学びと気づきを最大限に今後の学習に活かしていきます。

O.K.(東日本国際大学)